

吉崎 誠：日本藻類学会第20回大会（船橋・東邦大学）をふりかえって
Makoto Yoshizaki : Report of the 20th Annual Meeting of the Japanese Society
of Phycology in Funabashi (Toho University, March 28-29, 1996)

日本藻類学会第20回大会は、1996年3月28・29日の両日、千葉県船橋市にある東邦大学理学部で開催された。大会参加者は非会員も含み一般170名、学生72名、それに大会を手伝ってくれた人達8人を加えると、250人となった。発表数は口演発表62件、展示発表19件、特別展示発表1件、シンポジウム1件(5題)であった。これまでになく発表件数が多く、2会場で同時に発表を進めることとなった。大会開催両日ともに盛況で、両日夕方に行われた懇親会はいずれもが盛況であった。大会はすべて順調にすすみ、主催者として参加者のみなさまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本藻類学会々則の第2条に「本会は藻学の進歩普及を図り、併せて会員相互の連絡並びに親睦を図ることを目的とする。」とある。第3条は第2条の目的を達するために行う事業が述べられている。日本藻類学会第20回大会を引き受けるにあたり、この会則に則った大会にするべく様々なことを考えた。近年、大きな発展を遂げた学問分野をあげると生物学と天文学であるという。藻類学会での研究発表を見ると、物質レベルから、細胞、組織、器官、個体、生態、環境問題まで広い分野にわたり、取り扱われる分類群は藻類のみならず菌類から海草までと多様である。さらに、経験豊かな人から、若い大学生までと参加者も多彩であり、年々参加者も増加の傾向がある。藻類学会の発展はとどまることを知らない。ところが、東邦大学は私立のほとんど女子大に等しい小さな大学である。まず、東邦大学で開催するとすると宮地和幸と吉崎の二人で運営しなければならない。手助けしてもらえぬ学生の手も少ない。けれども、それだけにいろんな試みができるに違いないと思ったのである。まず、第19回大会の懇親会席上で、次回大会を東邦大学で開催することが紹介された後、直ちに、千葉県立中央博物館の宮田昌彦氏、国立教育研究所の鳩貝太郎氏、宮地と吉崎の4人で第20回大会準備委員会を組織し、大会会長に吉崎、庶務と会計を宮地が担当することを決めた。その後7回の委員会を開き第20回大会が開催されたのである。会則に則して、大会の特別企画としてシンポジウ

ムを計画し、一つの曲折を経て、横浜康継先生(筑波大学下田臨海実験センター)にオーガナイザーをお願いし、「海の中の森林生態学」を企画してもらった。大会を千葉県で開催することでもあり、千葉県の海藻食文化を紹介したいとして、「千葉県の海藻の文化誌」を特別展示発表することにし、鳩貝と吉崎が担当することとした。また、採集会を行うなどが議論され、実行可能な企画はどんどん実行することにした。これらの企画は直ちに実現し、横浜先生は講演要旨をとりまとめ、鳩貝は取材に走り回り、大会初日の懇親会で「山武太巻き寿司研究会」の太巻き寿司実演交渉が成立した。千葉県北部で食べられている「かいそう(コトジツノマタの蒟蒻)」も銚子の加工業者に注文した(これは当日山岡容子君が銚子までとりにいってくれた)。採集会は鳩貝が交渉し、館山市にある千葉県立水産共同実習所で3月25日から27日まで、これから大型藻類を勉強しようとしている若い人達の参加を求めて開催することにし参加者を募った。そして、啓蒙のために280枚のポスターを作成し、大会開催案内と共に海苔・海藻生産加工販売に携わる企業、水産加工食品業者、漁業組合、研究所など、これまであまり働きかけたことのない人達の参加を求めた。

大会当日は好天に恵まれ、600枚も用意した傘袋を使わずにすんだ。少ないスタッフでいかに滞りなく進行し、しかも参加者に満足してもらえるかにスタッフ全員が心を配った。そのために、各会場に責任者を置いた。A会場は鳩貝、B-C会場は宮地、D会場は宮田が担当した。パソコン画面に表示するタイムキーパーを各会場に設置した。スライド係りは鈴木浩文君をヘッドとし、吉崎と鳩貝が主催する生物教育研究ゼミのメンバーに手伝ってもらった。また、採集会参加者も積極的に手伝ってくれた。受付は亀井純子君(かずさアカデミアパーク)に責任者となってもらった。休憩室は竹内亜希子君が担当し、懇親会用に握り飯を用意することは黒谷玲子君を責任者とした。大門由佳君は連絡係として走り回ってくれた。山岡容子君は東邦大学で学会を引き受けた時から、あらゆる雑用を積極的に引き受けてくれた。また、愚息吉崎総雄には適所

で働いてもらった。かくして、大会は滞り無く進行したのである。大会開催当日、様々なハプニングがあった。座長の無断欠席が1件、展示会場では何の連絡もないまま、展示発表開始2時間前になってもポスターを貼らない発表者がいて会場責任者をあわてさせた。29日に石川茂雄先生ご夫妻が大会にお見えになられた。懇親会場には石川先生の種子の写真を展示してあったのでご記憶の方も多かろうと思うが、石川先生は岡村金太郎の直弟子であられ、いわゆる岡村先生の自宅で開かれた岡村塾で岡村先生の声咳にふれた方であり、横浜康継・石川依久子・斉藤宗勝氏の先生でもある。折から斉藤宗勝氏の口演を親しく聞かれ、シンポジウムも聞かれて帰られた。

懇親会は東邦大学ラウンジの2階を会場として開催された。予想を上回る盛況であった。吉田忠生学会会長挨拶、大会会長挨拶、そして宮田、宮地、鳩貝の大会スタッフと、大会を手伝ってくれた人達が紹介された後、かつて東邦大学教授であった加崎英男先生に乾杯の音頭をとっていただいた。山武太巻き寿司研究会の実演は見事であったし、予想を超える参加者だったので、アツという間に用意した食べ物や飲み物がなくなってしまうのではないかと心配したのだが、最後には握り飯を持ち帰ってもらうことができ、これも好評であった。

29日も各会場とも順調に進行し、活発な討論が行われた。シンポジウムも大成功であった。これまであまり参加してもらえなかった人達にも接することができたし、議論も各所で活発に行われていた。29日の懇親会も盛況であった。三浦昭雄先生（青森大学）にお世話いただき、金田漁業協同組合組合長理事武内英雄殿と全国海苔貝類漁業協同組合連合会会長理事長木一殿から素晴らしく優秀な海苔を提供していただきました。この海苔は山武太巻き寿司の実演に用いられました。残りはこの懇親会の終わりに、三浦昭雄先生から参加者に手渡ししていただきました。かくて、日本藻類学会第20回大会は終わった。これまでになくたくさ

んの方々に参加いただき、活発な議論をしていただき、また、親睦を深めていただいたことに感謝します。横浜先生には当日学会会場で販売したご著書と、海藻おしばの売上金をご寄付いただきました。お礼申し上げます。大会開催に当たり協力していただいたスタッフや、手伝ってくれたみんなに深く感謝します。大会の運営にばかり専念して、藻類若手の会にまでは手が回りませんでした。お詫び申し上げますが、若い人達の礼儀ある態度も欲しいものです。

最後に会計報告をします。

収入	
学会よりの補助金	120,000
大会参加費（前納）	822,000
当日大会参加費	486,000
採集会参加費	380,000
寄付	105,000
出店料	60,000
雑費	2,100
利息	154
合計	1,975,254
支出	
ポスター、案内等印刷費	307,558
通信費	43,300
運送費	15,717
文房具類	61,749
特別展示	62,460
採集会	347,948
茶菓子代	23,156
昼食代	23,420
懇親会費	893,318
酒代	60,266
慰労会費	90,947
雑費	45,415
合計	1,975,254

(〒274 千葉県船橋市三山2-2-1 東邦大学理学部生物学科)